

イガ再資源化で3級検定

NPO法人廃棄物教育センター

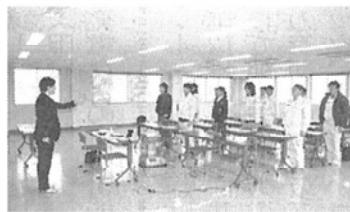
食リ従業員が基本学ぶ

NPO法人廃棄物教育センター（松岡力雄理事長）は2月8日、食リサイクル事業を手掛ける三重県伊賀市のイガ再資源化事業研究所（高野康男社長）でリサイクルマスター3級の出張検定を実施し、同社とグループ会社トントンファームの従業員、合わせて13人が受検した。

講義に先立って、イガ再資源化の高野社長があいさつ。「いろいろな方が私たちの食リサイクル施設を見に来

る時代になった。お客様に対するあいさつなど、基本を改めて勉強をしておく、自分たちのためにもなり、排出事業者が当社を見る目も変わってくる」と激励した。

松岡理事長は、講義の冒頭で、今回の検定直前、「こんな思いはさせたくない」と、ある収集運搬業者のドライバーから寄せられた、指の切断事故による負傷箇所の画像をいきなり紹介。虚を衝かれた受検者に、危険を伴う



あいさつの基本を学ぶ

廃棄物の仕事では安全が第一であることを強調

調し、3級の主眼を説明した。

続いて数人を指名して「処理業者として嬉しかったことは？」「自分なりのプロ意識は？」と問いかけをしながら、受検者の集中力が高まったところで、恒例のあいさつ訓練。「あいさつで自分をコント

ロールする。声が出ない人はどうすれば出るのか考えて欲しい」と力説した。

講義の後には計20問からなる検定試験が行われ、合わせて正味1時間で終了。受検者は大きな声で「ありがとうございます」と唱和した。